問題用紙は、試験監督員からの開始の指示があるまで一切開かないでください。

令和５年度

液化石油ガス設備士　法令試験問題

ＬＸ

試験時間　9：30 ～ 10：30

注 意 事 項

⑴ **配布された問題用紙の種類（左上に黒地白文字で示しています。）が受験する試験の種類に間違いがないか、また、問題用紙と受験番号札の色が合致しているかどうか、必ず確認してください。**

万一、異なる場合は、速やかに試験監督員に申し出てください。

⑵ 答案用紙に記入されている受験番号、氏名等を確認し、間違いがあれば「受験者住所等修正票」を請求し、正しい内容を記入して試験監督員に提出してください。

⑶ この試験は電子計算機で採点しますので、答案用紙に記入する際には、記入方法を間違えないように特に注意してください。

電子計算機は、黒く塗りつぶした ● の部分を読みとります。

⑷ 試験問題の解答は多肢選択式です。解答は、各問題の下に掲げてある⑴～⑸の中から、**最も適切なものを１問につき１個だけ選んでください。** １問につき２個以上選択した場合には、その問題については０点になります。

⑸ 解答は、次の例にならって、答案用紙の所定の欄にマークしてください。

「記入例」

問　次のうち正しいものはどれか。

⑴　A　⑵　B　⑶　C　⑷　D　⑸　E

⑶を選択する場合には、 ⑴ ⑵ ⑶ ⑷ ⑸
 ○ ○ ● ○ ○ のように、 ○ の枠いっぱいに、はみ出さないように**ＨＢ又はＢ鉛筆**で黒く塗りつぶしてください。

⑹ **試験問題に関する質問にはお答えできません。**

⑺ **「問題用紙」及び「答案用紙」は、試験監督員の指示に従い必ず提出してください。**

次の各問について、特に記述のない場合、液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律（以下「液化石油ガス法」という。）に係る法令上正しいと思われる最も適切な答えをその問の下に掲げてある⑴、⑵、⑶、⑷、⑸の選択肢の中から１個選びなさい。

なお、この試験は次による。

⑴　令和５年４月１日現在施行されている液化石油ガス法に係る法令に基づき出題している。

⑵　経済産業大臣が危険のおそれのないと認めた場合等における規定は適用しない。

問１　次のイ、ロ、ハの記述のうち、液化石油ガス法に係る法令上正しいものはどれか。

イ．「液化石油ガス」とは、プロパン、ブタン及びプロピレンを主成分とするガスを液化したものであって、液化した状態のものだけをいう。

ロ．液化石油ガス法は、一般消費者等に対する液化石油ガスの販売等を規制することにより、液化石油ガスによる災害を防止するとともに液化石油ガスの取引を適正にし、もって公共の福祉を増進することを目的としている。

ハ．鉄道車両内において、液化石油ガスを飲食物の調理のための燃料として業務の用に供する者は、「一般消費者等」である。

⑴　イ　　⑵　ロ　　⑶　イ、ハ　　⑷　ロ、ハ　　⑸　イ、ロ、ハ

問２　次のイ、ロ、ハの記述のうち、貯蔵設備の貯蔵能力が1000キログラムである容器（バルク容器を除く。）による供給設備の技術上の基準について正しいものはどれか。

イ．貯蔵設備は、鉄筋コンクリート障壁等を設けた場合であっても、その外面から第一種保安物件に対し16.97メートル以上、第二種保安物件に対し11.31メートル以上の距離を有しなければならない。

ロ．貯蔵設備は、その外面から火気（当該貯蔵設備に附属する気化装置内のものを除く。）を取り扱う施設に対し、漏えいした液化石油ガスがその施設に流動することを防止するための措置を講じない場合は、５メートル以上の距離を有しなければならない。

ハ．貯蔵設備には、その外部から見やすいように警戒標を掲げていなければならない。

⑴　イ　　⑵　ロ　　⑶　イ、ハ　　⑷　ロ、ハ　　⑸　イ、ロ、ハ

問３　次のイ、ロ、ハの記述のうち、貯蔵設備の貯蔵能力が1000キログラムである容器（バルク容器を除く。）による供給設備の技術上の基準に適合しているものはどれか。

イ．二段式減圧用一次側調整器と二次側調整器の間の供給管については、その工事の終了後、0.15メガパスカルで行う気密試験に合格することを確認した。
ロ．供給設備に設置されたバルブ、集合装置、気化装置及び供給管のうち、気化装置については漏えい試験を省略することができる。
ハ．充てん容器と調整器（二段式減圧用二次側のものを除く。）の間に設置した管は、0.8メガパスカルの圧力で行う耐圧試験に合格したものを使用した。

(1)　イ　　(2)　ロ　　(3)　ハ　　(4)　ロ、ハ　　(5)　イ、ロ、ハ

問４　次のイ、ロ、ハの記述のうち、貯蔵能力が950キログラムのバルク貯槽による供給設備の技術上の基準について正しいものはどれか。

イ．バルク貯槽の附属機器のうち、所定の放出管を設けた場合であっても、安全弁はふた付きのプロテクターで保護しなければならない。
ロ．バルク貯槽を屋内に設置する場合は、漏えいした液化石油ガスが滞留しない措置として、ガス漏えい検知警報設備と強制換気装置を設けなければならない。
ハ．バルク貯槽（附属機器を除く。）は、高圧ガス保安法で定める特定設備検査合格証又は特定設備基準適合証を有しなければならない。

(1)　イ　　(2)　ロ　　(3)　イ、ハ　　(4)　ロ、ハ　　(5)　イ、ロ、ハ

問５　次のイ、ロ、ハの記述のうち、地盤面下に埋設した貯蔵能力が950キログラムのバルク貯槽による供給設備の技術上の基準に適合しているものはどれか。

イ．バルク貯槽の周囲に、所定の基準に従って、ガス検知用の孔あき管を設置した。
ロ．バルク貯槽の水平投影面の二隅に、埋設後の貯槽の位置を示す標識杭を設置した。
ハ．バルク貯槽の埋設に、石塊等のない土を用いた。

(1)　イ　　(2)　ロ　　(3)　ハ　　(4)　イ、ハ　　(5)　イ、ロ、ハ

問6　次のイ、ロ、ハの特定供給設備に関する記述のうち、正しいものはどれか。

イ．貯蔵設備が容器であって、その貯蔵能力が2000キログラムのものには特定供給設備の技術上の基準が適用される。
ロ．貯蔵設備が地盤面上に設置するバルク貯槽であって、その貯蔵能力が3000キログラムであるものは、そのバルク貯槽に生じる静電気を除去する措置を講じなければならない。
ハ．貯蔵能力が1000キログラムのバルク貯槽を、その外面から火気（そのバルク貯槽に附属する気化装置内のものを除く。）を取り扱う施設に対して5メートルの距離を有して設置した。

(1)　イ　　(2)　ロ　　(3)　イ、ハ　　(4)　ロ、ハ　　(5)　イ、ロ、ハ

問7　次のイ、ロ、ハのうち、保安業務の区分として定められているものはどれか。

イ．周知
ロ．定期消費設備調査
ハ．保安検査

(1)　イ　　(2)　ロ　　(3)　ハ　　(4)　イ、ロ　　(5)　イ、ロ、ハ

問8　次のイ、ロ、ハの記述のうち、消費設備（質量により液化石油ガスを販売する場合のものを除く。）の技術上の基準について正しいものはどれか。

イ．屋内に設置される配管は、特に定める場合には腐しょくを防止する措置を講じなくてもよい。
ロ．配管は、0.8メガパスカル以上の圧力で行う耐圧試験に合格するものであること。
ハ．配管は、耐圧試験に合格するものであっても、漏えい試験に合格するものでなければならない。

(1)　ロ　　(2)　ハ　　(3)　イ、ハ　　(4)　ロ、ハ　　(5)　イ、ロ、ハ

問9　次のイ、ロ、ハの記述のうち、消費設備（質量により液化石油ガスを販売する場合のものを除く。）の技術上の基準について正しいものはどれか。

イ．ガスメーターと燃焼器の間の配管その他の設備は、燃焼器の入口における液化石油ガスの圧力を所定の圧力の範囲に保持するものでなければならないが、生活の用に供する液化石油ガスに係るものにあっては、その保持すべき圧力の範囲の最高値は3.3キロパスカルである。

ロ．建物の自重及び土圧により損傷を受けるおそれのある配管には、損傷を防止する措置を講じなければならない。

ハ．電源により操作される気化装置に、停電の際に自動的に作動する自家発電機その他操作用電源が停止したとき液化石油ガスの供給を維持するための装置を設けた場合は、その気化装置から発生する液化石油ガスが通る配管に、手動復帰式自動ガス遮断器を設けなくてもよい。

(1)　イ　　(2)　ロ　　(3)　イ、ロ　　(4)　ロ、ハ　　(5)　イ、ロ、ハ

問10　次のイ、ロ、ハの記述のうち、消費設備（質量により液化石油ガスを販売する場合のものを除く。）の技術上の基準に適合しているものはどれか。

イ．ガス瞬間湯沸器以外のガス湯沸器であって液化石油ガスの消費量が10キロワットの密閉式でないものを屋内に設置したが、そのガス湯沸器に接続して排気筒を設けることが困難であったので、そのガス湯沸器の排気のための排気フードを設置した。

ロ．屋内に設置する自然排気式のガスバーナー付きふろがま（密閉式のものを除く。）の排気筒（排気扇が接続されているものを除く。）の高さを、定められた式により算出した値未満とした。

ハ．屋内に設置するガス瞬間湯沸器（密閉式のものを除く。）であって液化石油ガスの消費量が12キロワットを超えるものの排気筒は、凝縮水等がたまりにくい構造とした。

(1)　イ　　(2)　ハ　　(3)　イ、ハ　　(4)　ロ、ハ　　(5)　イ、ロ、ハ

問11　次のイ、ロ、ハの供給設備又は消費設備の設置又は変更の工事に係る作業のうち、液化石油ガス設備士でなければ従事してはならないものはどれか。

イ．気密試験の作業

ロ．耐圧試験の作業

ハ．保安検査の作業

(1)　イ　　(2)　ハ　　(3)　イ、ハ　　(4)　ロ、ハ　　(5)　イ、ロ、ハ

問12 次のイ、ロ、ハの液化石油ガス設備工事のうち、その設備工事を行った者が、遅滞なく、その旨をその設備工事を行った施設又は建築物の所在地を管轄する都道府県知事（指定都市の区域内にあっては、指定都市の長）に届け出なければならないものはどれか。

イ．幼稚園の暖房のための燃料として業務の用に供する液化石油ガスの供給設備であって、その貯蔵能力が400キログラムである貯蔵設備の設置の工事

ロ．病院の冷暖房の燃料として業務の用に供する供給設備であって、その貯蔵能力が800キログラムである設備に接続されるガスメーター出口から末端ガス栓までの配管の変更の工事

ハ．料理飲食店の飲食物の調理のための燃料として業務の用に供する液化石油ガスの供給設備であって、その貯蔵能力が600キログラムである貯蔵設備の位置の変更の工事

(1) イ　(2) ハ　(3) イ、ハ　(4) ロ、ハ　(5) イ、ロ、ハ

問13 次のイ、ロ、ハの特定液化石油ガス設備工事に関する記述のうち、正しいものはどれか。

イ．同一型式の気化装置の交換をする際のその気化装置と硬質管の接続に係る工事は、特定液化石油ガス設備工事に該当しない。

ロ．特定液化石油ガス設備工事事業者は、二以上の消費設備に液化石油ガスを供給するための供給設備の設置に係る特定液化石油ガス設備工事をしたときは、その供給管その他の設備の見やすい箇所に、容易に離脱しない方法により、所定の表示を付さなければならない。

ハ．特定液化石油ガス設備工事事業者が記録を作成しなければならない特定液化石油ガス設備工事に係る記録及び配管図面の保存期間は、2年間である。

(1) イ　(2) ロ　(3) イ、ロ　(4) ロ、ハ　(5) イ、ロ、ハ

問14 次のイ、ロ、ハの液化石油ガス設備士に関する記述のうち、正しいものはどれか。

イ．液化石油ガス設備士試験の合格通知を受けた者であっても、その免状の交付を受けなければ、所定の液化石油ガス設備工事の作業を行うことはできない。

ロ．特定ガス消費機器の設置工事の監督に関する法律に違反した者が保有する液化石油ガス設備士免状は、その免状を交付した都道府県知事から返納を命ぜられることがある。

ハ．液化石油ガス設備士であって、かつ、充てん作業者講習の課程を修了した者でなければ、保安業務であるバルク供給に係る定期供給設備点検を行うことができない。

(1) イ　(2) ロ　(3) イ、ロ　(4) イ、ハ　(5) イ、ロ、ハ

問15　次のイ、ロ、ハの記述のうち、特定ガス消費機器の設置工事の監督に関する法律に係る法令上正しいものはどれか。

イ．特定工事事業者が、ガス瞬間湯沸器（ガスの消費量が12キロワットを超えるもの）とそれに接続する排気筒を同時に設置の工事をしたときに、その両方の見やすい箇所に所定の表示を付した。

ロ．ガス瞬間湯沸器（ガスの消費量が12キロワットを超えるもの）の排気筒に接続される排気扇は、特定ガス消費機器である。

ハ．液化石油ガス設備士であって、特定工事事業者である者は、自ら特定工事を行うことができるだけでなく、特定工事を実地に監督することができる。

(1)　イ　　(2)　ハ　　(3)　イ、ロ　　(4)　ロ、ハ　　(5)　イ、ロ、ハ